

▽取組事例名	住民参画によるまちづくりの推進	▽取組期間	平成23年度～ (継続中)
		▽市町名	鬼北町

▽取組概要
<p>過疎化・少子高齢化が進行する中で、住民がまちづくりに主体的に参画し、直面する地域課題の解決や住民サービスの向上を目指して「まちづくり懇談会」を開催し、住民・地域・行政が一体となって協働のまちづくりを推進する。</p>

▽取組みの背景
<p>例年町主催による「町政座談会」を7月から9月頃に各公民館単位で実施していた。事前に町に対する要望・意見をとりまとめて、当日その回答やテーマを設定して意見交換を実施していたが、参加者は区長、組長がほとんどで、一般住民の参加者が少なく、意見交換においても建設的な意見が少なかった。「町政座談会」の持ち方について見直しを行い、平成23年度より町民の皆さんと町長が膝を交えて気軽に懇談できる「まちづくり懇談会」を随時開催することとした。</p>

▽取組みの狙い・具体的内容
<p>(取組みの狙い) 幅広い層(年齢、性別、職業など)の住民(各地区自治会・区長会、区、組、老人、青年、女性、スポーツ、文化、農林商工業、高校生などの団体・グループ)から多くの提言、意見を聴いて住民参加のまちづくりを行う。</p> <p>(具体的内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 対象 原則として、町内に在住、在勤又は在学する者で組織した団体及びグループを対象として、概ね10名以上の参加者で実施する。</li> <li>2: 期日 まちづくり懇談会は、年間通じて曜日に関係なく実施する。</li> <li>3: 時間 原則として午前9時から午後9時までの間に実施するものとし、1回の実施時間は1時間30分程度とする。</li> <li>4: 会場 実施場所は、町内に限るものとし、場所の確保及び設営は申込者の方が行う。</li> <li>5: 内容 申込者がテーマを設定し、会の運営を行う。</li> <li>6: 町からの出席者 テーマにより、町長外数名程度の職員が出席</li> <li>7: 実施事例 <ul style="list-style-type: none"> <li>団体名 安森鍾乳洞保存会 テーマ「安森洞そうめん流しを中心とした整備及び活動について」 参加者22名 意見・質問 鬼北町長期総合計画・後期基本計画での観光・振興等まちづくりの具体的計画について 南予いやし博の鬼北町の取組み、まちづくりに取り組んでいる団体の紹介 安森そうめん流しや残っている自然のPR方法、駐車場の整備等</li> <li>団体名 日吉一希を起こす会 テーマ「日吉地区の活性化と今後の展望について」 参加者17名 意見・質問 鬼北町のまちづくりにおける日吉地区の位置付けについて 日吉地区における今後の施策、空き施設(診療所・日吉分校校舎)の有効活用について</li> </ul> </li> </ol>

## ▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

平成23年度からの取組みで、広報等で住民への周知を行ったが、当初は参加申込みが無く、第1回目開催が平成23年10月となった。住民と行政とが一体となって問題解決に取り組むための手段として開催している「まちづくり懇談会」の趣旨を住民に浸透させることが難しい。

## ☆工夫した点

行政側が会場設定や資料作成をするのではなく、住民側が主体となって会設定を行い、住民が日頃から抱えている身近な問題や行政に対する意見要望など自由に設定したテーマで懇談会を開催することにより、活発な議論ができる。また行政主催型から住民主催型に変えたことにより、住民がまちづくりについて意欲を持ってもらい、行政・住民が共にアイデアを出し合いながら協働のまちづくりが推進できる。

## ▽取組みの効果

- ・住民の視点での問題解決や住民サービスの向上が図れる。
- ・申込団体からのテーマ設定により、タイムリーな課題に取り組むことができる。
- ・住民一人ひとりが地域活動に対する意識の醸成が図れる。

## ▽住民（職員）の反応・評価

住民の評価については、アンケートを実施していないため把握していない。  
昨年度からの実施であり、今後も多くの住民が参加できるよう各団体への申込案内を行い、地域活性化のきっかけづくりができるよう取り組んでいきたい。

## ☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

住民と行政との協働による地域づくりや地域課題解決のシステムを確立するため、開催された懇談会内容をホームページや広報誌に掲載し、随時住民への周知に努めている。

## ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

月1回ペースでの開催を目指し、住民への周知を図っていきたい。また幅広い世代の住民参加や若手職員も参加ができる「まちづくり懇談会」を開催し、行政と住民との相互理解や新たな連携・交流を進めていきたい。